

第4期朝霞市地域福祉計画・
第4期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかるヒアリング調査
結果報告書

令和2年3月

朝霞市・朝霞市社会福祉協議会

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	2
2. アンケート調査の方法.....	2
3. 回収状況.....	2
II 団体アンケート調査票集計結果	3
1. 団体について.....	4
2. 団体の活動について.....	5
3. 地域について.....	17
4. 地域共生社会の実現に向けて.....	20
III ヒアリング調査結果	18
1. 調査の目的.....	32
2. 調査の概要.....	32
3. 調査結果.....	33

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、第4期朝霞市地域福祉計画及び第4期朝霞市地域福祉活動計画策定にあたって、市内に組織されている福祉関係団体等の皆さまの、活動に関する現状や課題、今後の方向性、福祉施策についてのご意見等を把握し、計画策定の基礎資料とするためにアンケート調査を実施しました。

また、より掘り下げた課題の把握に向けて、ご回答いただいた団体の中から、後日グループヒアリングを実施しました。ヒアリング結果については、第Ⅲ章にとりまとめています。

2. アンケート調査の方法

対象	調査方法	調査期間
市内に組織されている福祉関係団体等	郵送配布・郵送回収 (希望者のみ電子データにて配布、回収)	令和元年 11月20日(水) ～12月13日(金)
対象分野	団体数	
【高齢者】	42 団体	
【障害のある人】	16 団体	
【地域活動団体】	16 団体	
【子ども】	13 団体	
合計	87 団体	

3. 回収状況

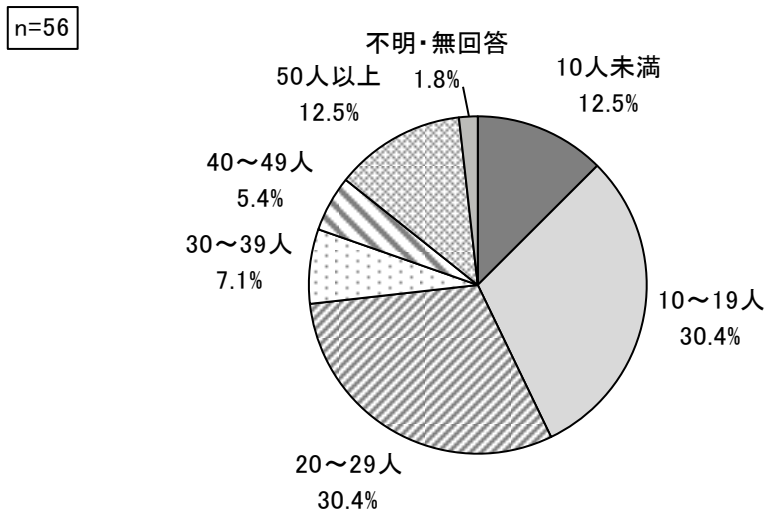
分野	配布数	回収数	回収率
【高齢者】	42 団体	● 団体	● %
【障害のある人】	16 団体	● 団体	● %
【地域活動団体】	16 団体	● 団体	● %
【子ども】	13 団体	● 団体	● %
合計	87 団体	56 団体	64.4%

Ⅱ 団体アンケート調査票集計結果

1. 団体について

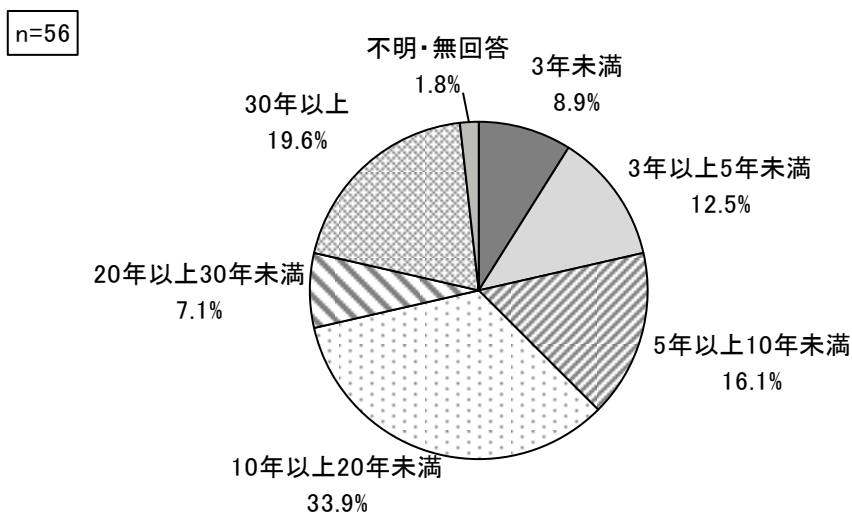
■ 会員数

会員数は、「20～29人」が30.4%で最も割合が高く、次いで「10～19人」が30.4%、「10人未満」が12.5%となっています。



■ 活動年数

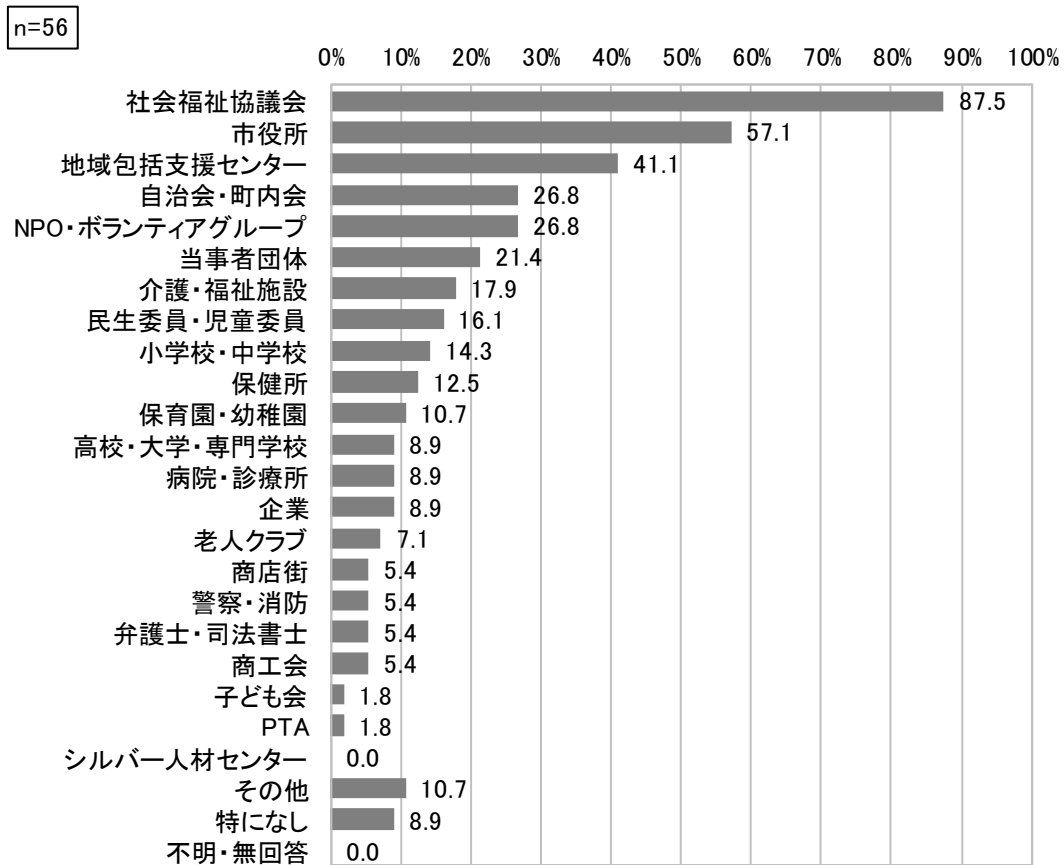
活動年数は、「10年以上20年未満」が33.9%で最も割合が高く、次いで「5年以上10年未満」が16.1%、「3年以上5年未満」が12.5%となっています。



2. 団体の活動について

問1 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

活動を行う上での他の団体・機関等との交流や連携、協力関係は、「社会福祉協議会」が87.5%で最も割合が高く、次いで「市役所」が57.1%、「地域包括支援センター」が41.1%となっています。



(問1で「1」から「22」または「24」のいずれかを選択した方にお聞きます。)

問1-1 交流や連携、協力関係があると回答した団体・機関等とどのような関係がありますか。

(自由記述)

■社会福祉協議会

会員の方々への出欠の連絡や新規会員の参加窓口など。
補助金の交付、サロンのスタッフ及び利用者の紹介など。
地域福祉活動運営費助成金を受けている。
ボランティア関係の依頼。
補助会の交付を受けている。
情報交換。
社協講座に参加する。補助金の配分あり。
社会福祉協議会補助金交付を受けている。他活動のアドバイス、情報提供を受けている。
補助金の交付を受けている。
後援・補助金の交付。
社協補助金。
活動資金の補助、講演会等の後援。
助成金と協賛金。

■市役所

補助金、福祉に関する関わり。
地域保健福祉活動補助金を受けている。
バリアフリー点検作業。
後援や協力していただいている。
情報交換。
補助金の交付。
先行予約、便宜供与、補助金、共催。
活動資金の補助、講演会等の後援。
遊び場の委託。

■地域包括支援センター

サロンのスタッフ及び利用者の紹介など。
健康維持のための又は認知症予防のための講演等。
地域包括支援センターの方とお互いに交流をもって相談にのってもらう。
日頃の健康について等。
健康体操の指導を受ける。
高齢者、障がい者のペットに関する相談に対応。
地域包括支援センターとは情報交換をしている。
月1回程度の会食参加とケアマネさんからのお話。
認知症予防相談、健康相談等。
地域でつながる横の関係を保っている。参加者見守り。活動助言、講師紹介等々。
利用者の方の情報を得たい時に相談している情報。

■自治会・町内会

補助金の交付とイベント(祭り)に協力。
町内会館・神社社務所の使用。
町内会からの補助金を頂いている。
補助金を受けている。
月1回カラオケ会場として使用。
会場費の免除。

毎月の団地ニュースにその月の活動を載せる。

■NPO・ボランティアグループ

障害者生き方あるいは団体の活動等についての話し合い。

ネットワーク団体として行事、交流会等を企画・運営。

事業を実行委員会形式で推進。

イベントへの相互協力、ペットの新しい飼い主探し。

■当事者団体

障害者・親の考え方等についての話し合い。

講師の派遣。

交流。

情報提供とリーダーの派遣。

■介護・福祉施設

ミニデイサービス増量へ。

高齢者、障がい者のペットに関する相談に対応。

■民生委員・児童委員

民生委員さんもスタッフ(会員)として、活動に理解協力してもらっている。

イベント等の広報協力。

■小学校・中学校

行事のチラシ配布。

マレーシアへの絵画作品提供を受ける。マレーシア作品展示・学校評議員。

放課後児童クラブでの支援活動。

■保健所

熱中症と栄養講座等の講話、月1回血圧測定と健康の相談を受ける。

健康の相談をする。

精神障がい者の対応についての相談等。

熱中症予防について等。

月2回健康相談を行って頂いている。

イベント等の広報。

保健所の薬物(麻薬等)活動に参加している。

■保育園・幼稚園

保育園での支援活動。

事業見協力依頼・敬老の招待をされる。

チラシ配布。

■高校・大学・専門学校

ボランティアの募集等。

チラシ配布。

東洋大学の学生がボランティアに来てくれている。

■病院・診療所

講師の派遣。

生活ホームで歯科と連携をとっている。

あさかの歯科が医療生協の病院などから講師派遣を受けている。

■企業

寄付・便宜供与。
協賛金。
地元企業と協働事業を計画。

■老人クラブ

小学校へ昔あそびを教えに行くときおじいちゃん(男の子の遊び)と共に。

■商店街

商店街のバリアフリーや障がい者に対する理解等の普及活動。
イベントチラシ配布協力。

■警察・消防

オレオレ詐欺、交通安全、防犯についての話。
音楽隊と知的障害児・者との演奏活動。
朝霞警察署より「犯罪から身を守る方法」を中心に講演して頂く。

■商工会

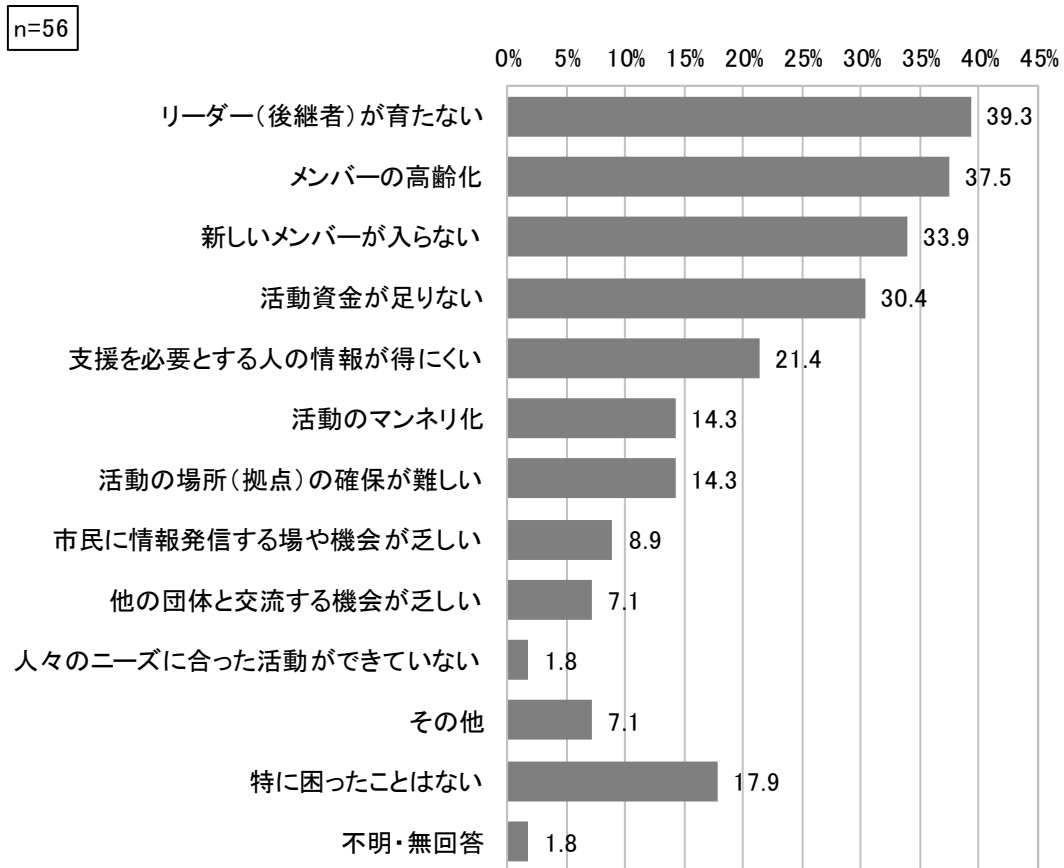
商工会の催物のある時は当団体のメンバー数名おてつだい。
商工会イートマルシェに参加。

■その他

行政書士と連携してNPO法人に関する相談事業。

問2 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

活動を行う上で困っていることは、「リーダー（後継者）が育たない」が39.3%で最も割合が高く、次いで「メンバーの高齢化」が37.5%、「新しいメンバーが入らない」が33.9%となっています。



(問2で「1」から「11」のいずれかを選択した方にお聞きます。)

問2-1 問2で挙げた課題解決のためには何が必要だと感じますか。(自由記述)

■リーダー(後継者)が育たない

高齢化しているため、自発的に動ける人が少なくなっているため若い元気な方が入ってくれること。
全てのボランティア活動であることも要因。つまり、誰でも、なんでもよい訳でもない為、各々自力で学習も必要の為、苦勞が多い。
活動をしながら(伝えながら)次世代へつなげていくこと。
若いスタッフ(大学生や一般の方)が、ほしいと思っていますが探す手だてがなかなかみつかりませんので、若い人との交流が必要。
後継者は参加している人たちで役割を分けが必要。
年齢の比較的若い方の参加がもう少し多くなれば引継ぎもスムーズに行えるかと思いますが…。
日頃の活動で人材の後継を意識しておく。リーダーは自らの記事を役員等他メンバーに伝えておく。実践してもらう。
動物関係の専門職又は有資格者が望ましい。

■メンバーの高齢化

高齢に伴い会員の減少が著しい。
若い世代の方に認知、理解してもらい様な場がなく、その様な活動をしようにも会員の減少、高齢化で、外に出てバザー等の参加も厳しい状態なので、その様な場や理解してもらいように広報活動。
ボランティアに対する考え方が若い世代と違う。無料ではしたくないという人が多い。ボランティア活動の教育が必要。
若い人の加入。
高齢者の食事会なので、利用者には問題がないのですが、スタッフが高齢化し若年層が入会せず、体験をしたらボランティア活動に移れるよう働きかける。
高齢化になり歩けなくなり参加できなく一番の問題になっています。

■新しいメンバーが入らない

会員の入会が難しくなっている(加入)。
市民への情報発信の場とツール。
行政・支援機関のバックアップと支援。
町内会の活用・交流。
チームワークが良すぎて、他の人が入りにくい。
どんどん高齢化が進み、人が少なくなっていますのでメンバーの減少はやむをえないと思いますが、少しでも高齢者の方に声をかけ、メリットを伝え、努力をし続ける事が大事だと思っています。
SNSなどを活用した情報発信。
広くPR活動の強化。
利用者さんたちで同じ考え方の団結が強く、なかなか新しい方の参加が少ない。ポスターやスタッフが声かけに力を入れているがむずかしい。
活動自体は皆さん賛同してくれるので。会のつっこんだ広報活動の工夫が必要。
新しい会員が入会するようにアピール・声かけ。活動内容の紹介。
活動の広報。
保健センターの乳児検診時に傾聴相談等・チラシ配布の許可。
日頃から活動をオープンにし、誰もが参加しやすい雰囲気づくりに心掛ける。

■活動資金が足りない

主に会費で運営しているので、活動資金を安定させられるために会員(会費)を増やしたい。
外出の少ないメンバーのため、市内での見学会や参加したい集いがあっても、歩きやバスの乗り降りができないため、タクシー代が必要となり、計画できない。サポートするスタッフも高齢化で活動が制限されるため、

もう少し増額してもらいたい。
事業参加対象者を考えると参加費を多く集金できないこととミニデイサービスに開錠・施錠し教えたりする人への賃金等が必要である。…人件費補助が欲しい。
国際協力は助成金確保が下手なので…資金繰りに苦労している。
活動資金を稼ぐための行政の協力が得にくい。
子育て支援の一環として事業化 企業の協賛金。
当市の社会福祉、社会保障制度の健全化のためには市民の健康づくりがポイントとなる。医療費介護税などの抑制のためにも、市民の自主的な活動を活動資金面で支援した方が安くあがると存じます。無論、活動資金が少ないなりに活動すればいいだけです。
自由財源の確保。
収益事業の拡大、助成金の獲得。

■支援を必要とする人の情報が得にくい

我々の活動は「自分に出来ることを自主的に行うこと。集まって会話するには20人程度が良い。最高でも20人と思う。主体性を願っているのでリーダーを求めてはいないが、リーダーの能力を伸ばしていくのも良い。時々でも顔を出してくれて、元気を確かめられることは良いこと。おしゃべりの中で、支援必要ある人の情報も得られたりする。今後近隣の地区との交流も出来るとお互いに活性化するであろう。
本当に困っている人に届かない。ネット環境が困難な人のために紙ベースのチラシ配布の工夫が必要。
地域包括支援センターともっと連絡とりあいたい。
PRが少ない、行政の協力が得にくい。
長い時間をかけて周知する以外、ホームページ、フェイスブック医療福祉関係者に働きかけていく。
学校や保健センターなどとの連携。

■活動のマンネリ化

高齢化に伴い新たな事業に取り組めない。
催物の時だけは多数来てくれるが、平日には集まりにくい。子供は保育園に親は働いているため。高齢者は趣味や体力増進のため何かしらに出かけている。あまりの高齢になると出かけてくのが臆病になるか施設に入ってしまった。これらをふまえて活動する側は、スタッフ等マンネリ化を防いで新しいものにチャレンジする必要がある。
新しいメンバーが入らない。高齢者の分類が非常に困難になってきている。男女の差、個人差が大きくなり解消する必要がある。

■活動の場所（拠点）の確保が難しい

植樹場所（民地の買い上げ）。
活動場所は、今の所がいつ使用できなくなるなか心配しながらです。無料又は低額で使用できる公共の場が定期的に確保出来れば、現金補助がなくても、運営できると思います。
子育て支援の拠点があれば、もっとたくさんの人にきてもらえる。行政の委託 NPO となって活動することができたらと思っています。

■市民に情報発信する場や機会が乏しい

ボランティアの質の向上と人数確保。講座の内容と現場参加を実習で行ってほしい。高齢者の心理及び生活の実態等をしっかりとボランティア希望の方に知らせてほしい。（理解を含め）9:30～16:30と長い時間なので、ボランティアで見守るにはつらいものがある。
--

■他の団体と交流する機会が乏しい

町会の老人会を母体として、生まれた会なので、他の地域との交流をもたない。
他の団体との積極的なかわりに心掛ける。公機関（包括支援センター民生委員）との交流を大切にします。

■人々のニーズに合った活動ができていない

中高年男性気持ちがかめれない。大々的にアンケートを実施し分析してほしい。
研修会等を開いても部員が定着しなかった。ニーズがほとんどない。後継者のなり手がいない。

■その他

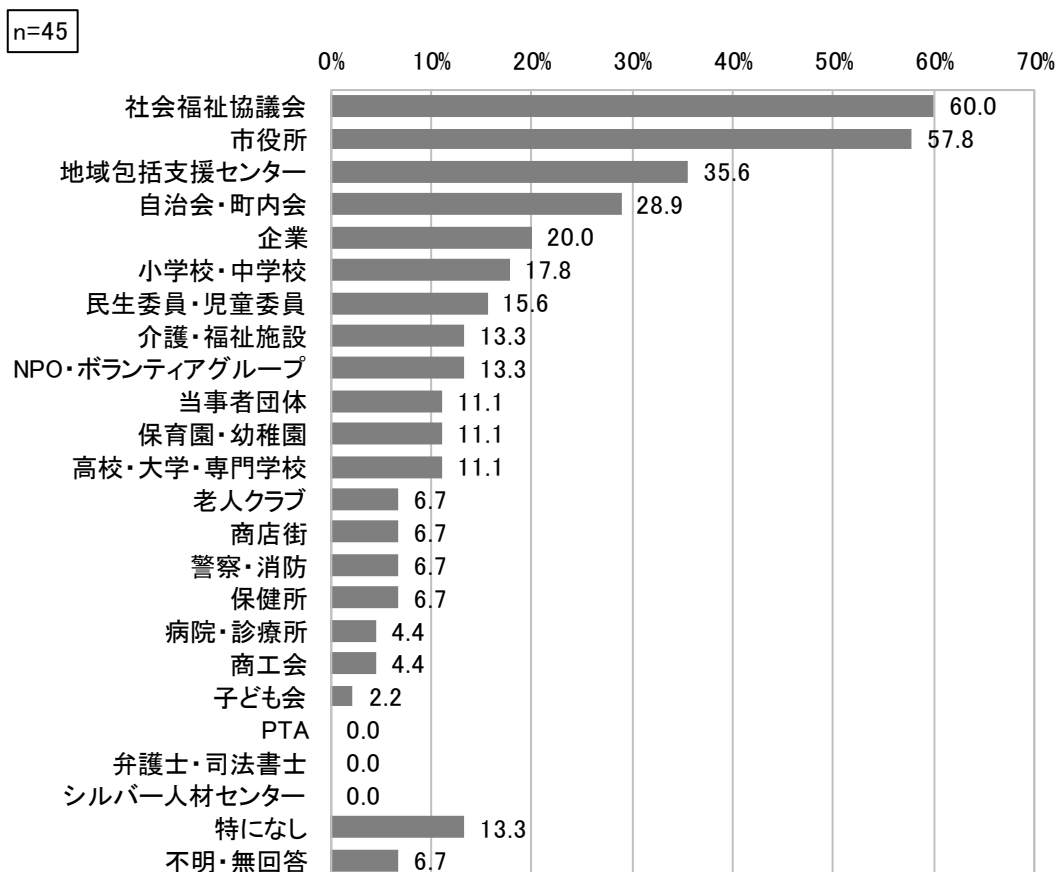
行政の意識を変えることが全てです。朝霞市はいまだに縦割り行政の印象があります。行政が実施している貧困対策ですら縦割り行政の意識のため他自治体と比べ進んでいない状況です。大きな視点から、何のための取り組みかを考えなければ真に市民のための良い施策はできないでしょう。

(問2で「1」から「11」のいずれかを選択した方にお聞きます。)

問2-2 問2で挙げた課題解決のために、どのような機関・団体と連携したいですか。

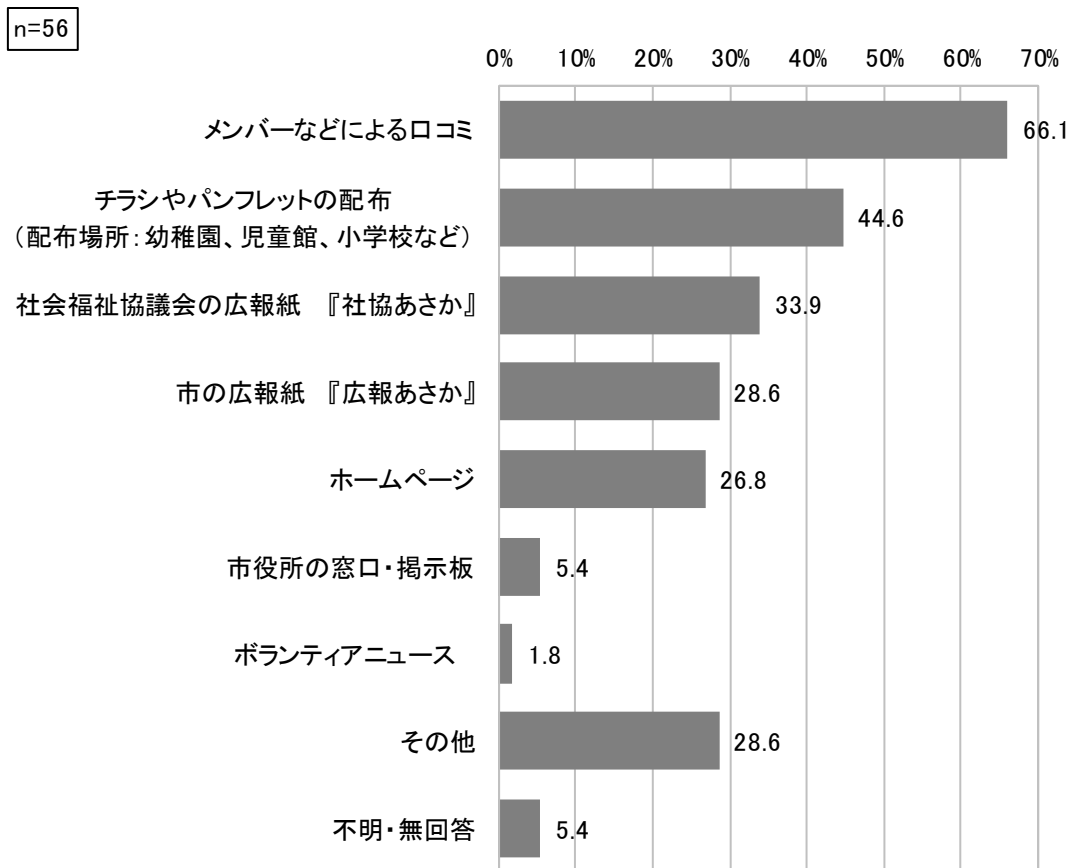
(あてはまるものすべてに○)

課題解決のために連携したい機関・団体は、「社会福祉協議会」が60.0%で最も割合が高く、次いで「市役所」が57.9%、「地域包括支援センター」が35.6%となっています。



問3 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)

団体の活動情報の発信は、「メンバーなどによる口コミ」が66.1%で最も割合が高く、次いで「チラシやパンフレットの配布（配布場所：幼稚園、児童館、小学校など）」が44.6%、「社会福祉協議会の広報紙 『社協あさか』」が33.9%となっています。

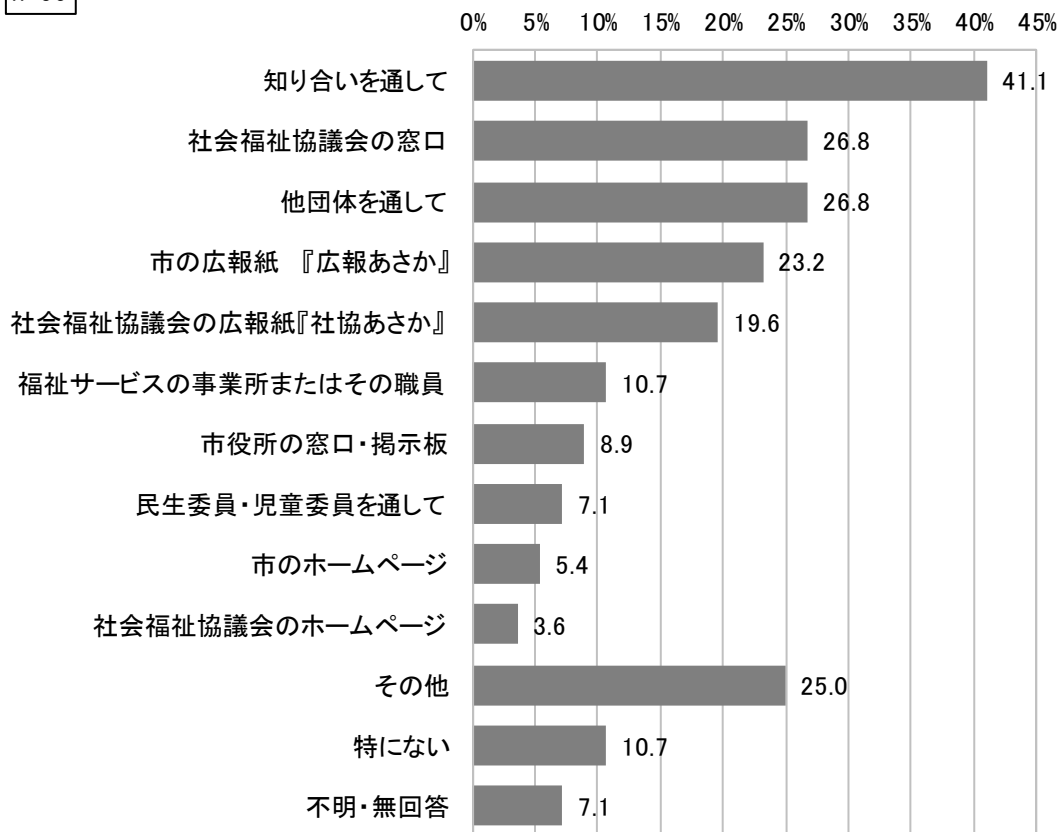


問4 貴団体では、団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか。

(あてはまるものすべてに○)

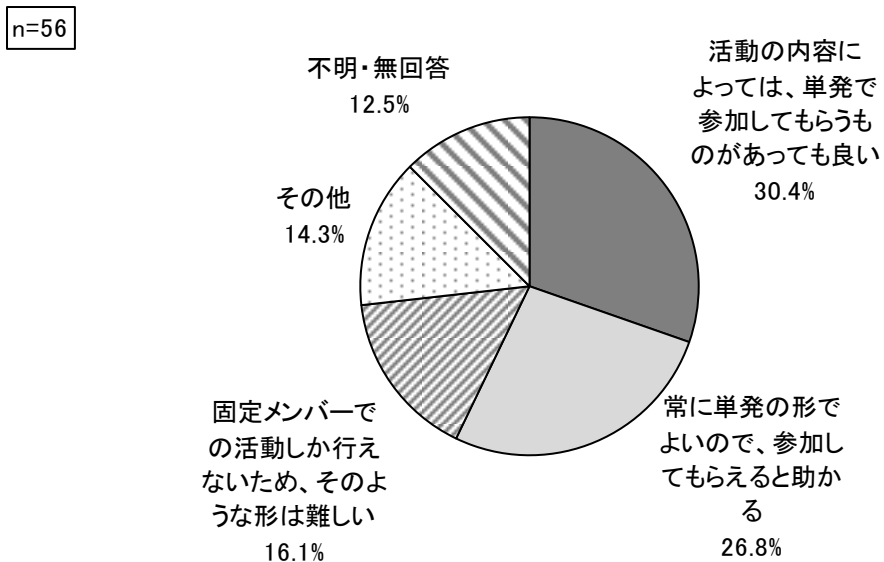
団体の活動に必要な情報の入手先は、「知り合いを通して」が41.1%で最も割合が高く、次いで「社会福祉協議会の窓口」が26.8%、「他団体を通して」が26.8%となっています。

n=56



問5 市民の方が気軽に活動に参加できるように、市民の方が貴団体の活動に単発で参加することは考えられますか。(1つに○)

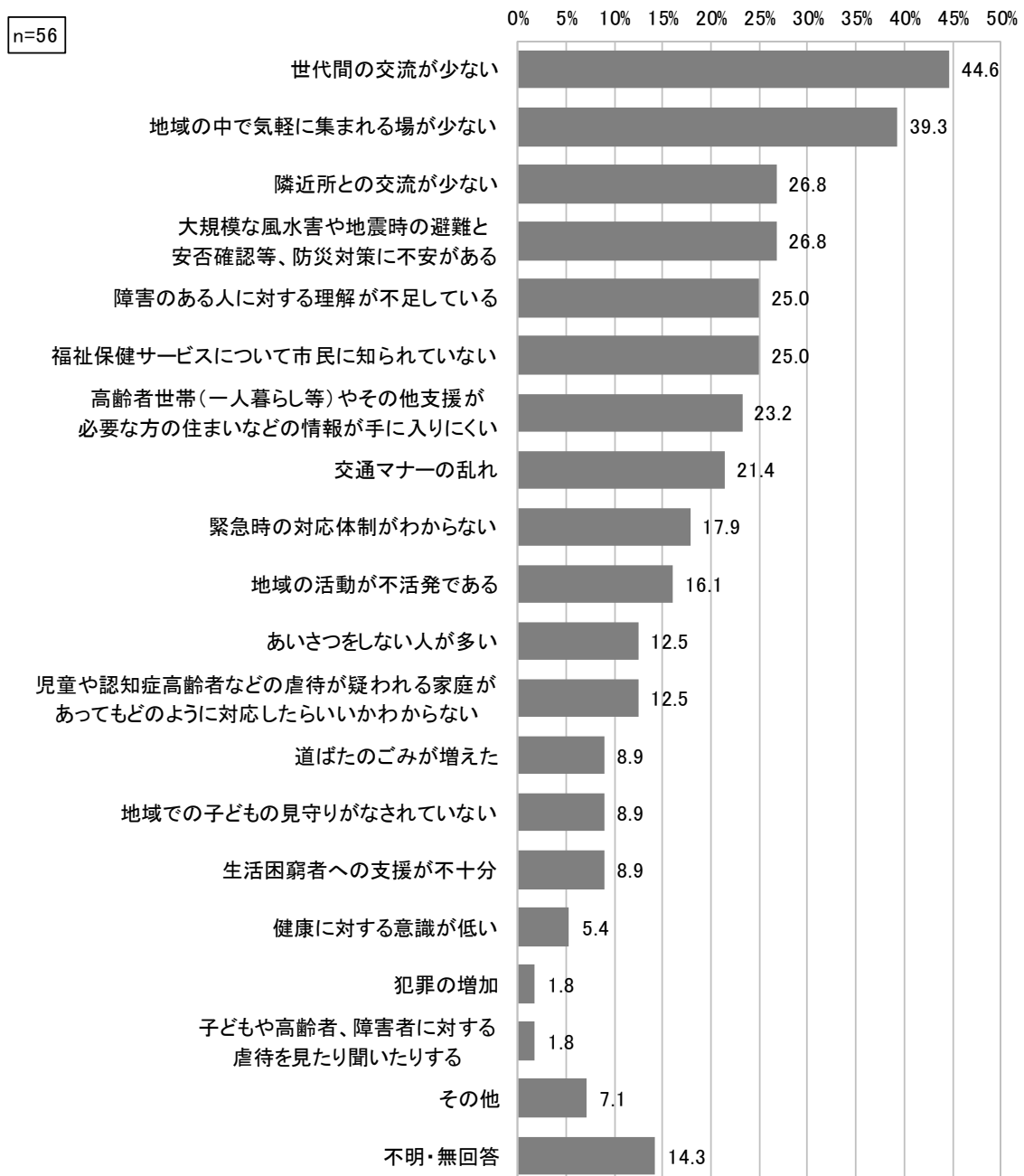
団体の活動に市民が単発で参加することは、「活動の内容によっては、単発で参加してもらっても良い」が30.4%で最も割合が高く、次いで「常に単発の形でよいので、参加してもらえると助かる」が26.8%、「固定メンバーでの活動しか行えないため、そのような形は難しい」が16.1%となっています。



3. 地域について

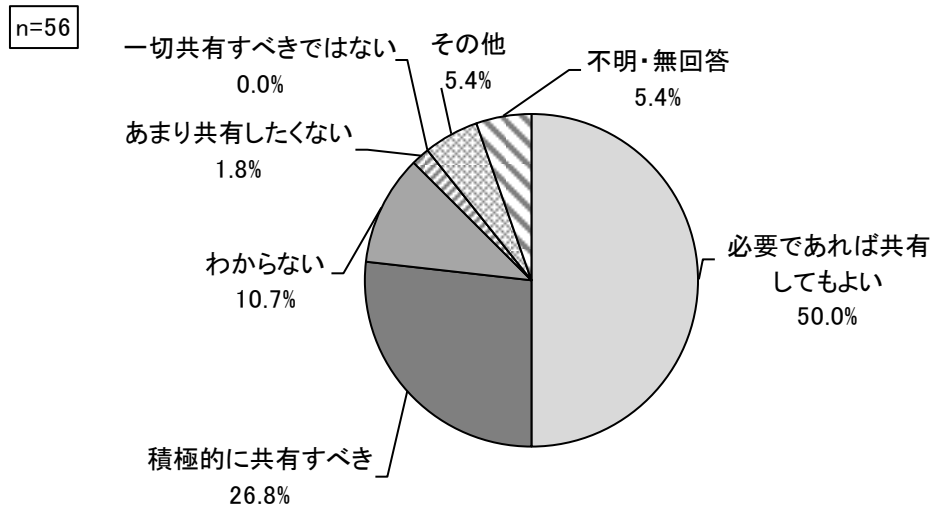
問6 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

地域の問題点や課題は、「世代間の交流が少ない」が44.6%で最も割合が高く、次いで「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が39.3%、「隣近所との交流が少ない」、「大規模な風水害や地震時の避難と安否確認等、防災対策に不安がある」が26.8%となっています。



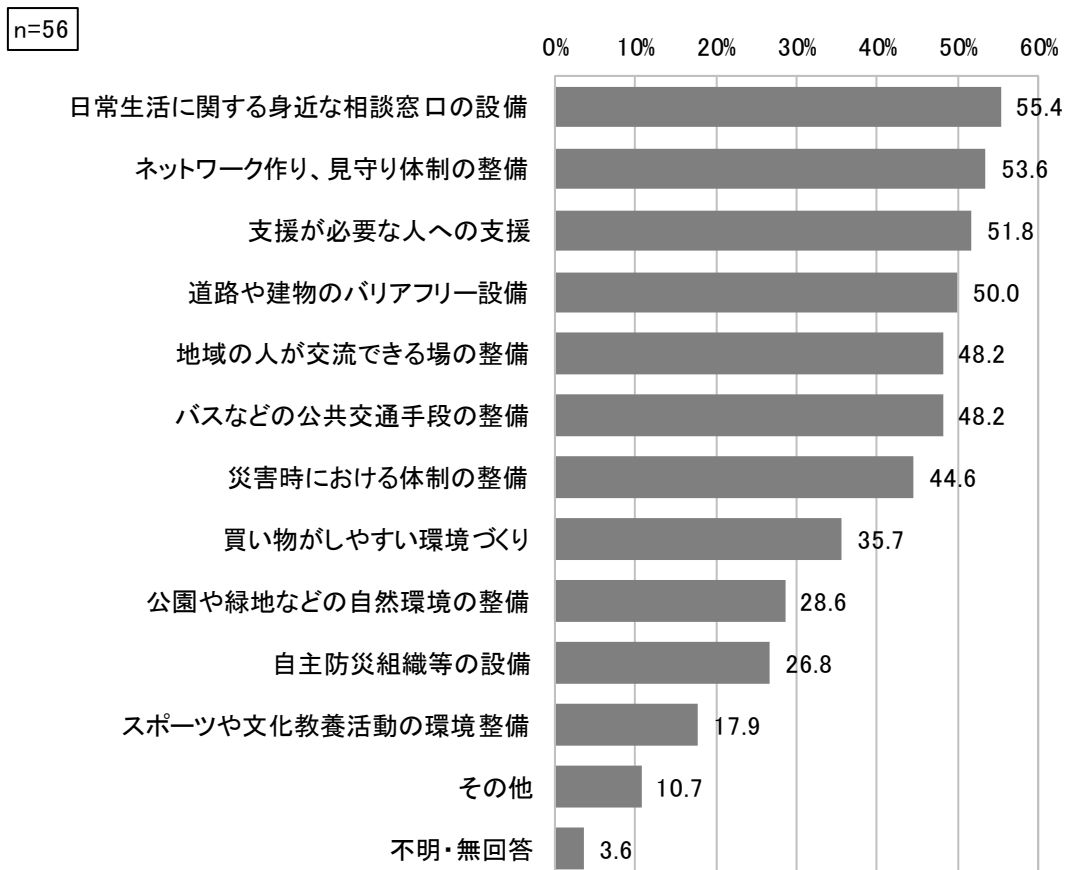
問7 貴団体では、地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止等のために、自治会・町内会等を単位とした支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(1つに○)

自治会・町内会等を単位とした支援者が必要な個人情報を共有することは、「必要であれば共有してもよい」が50.0%で最も割合が高く、次いで「積極的に共有すべき」が26.8%、「わからない」が10.7%となっています。



問8 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なことは、「日常生活に関する身近な相談窓口の設備」が55.4%で最も割合が高く、次いで「ネットワーク作り、見守り体制の整備」が53.6%、「支援が必要な人への支援」が51.8%となっています。

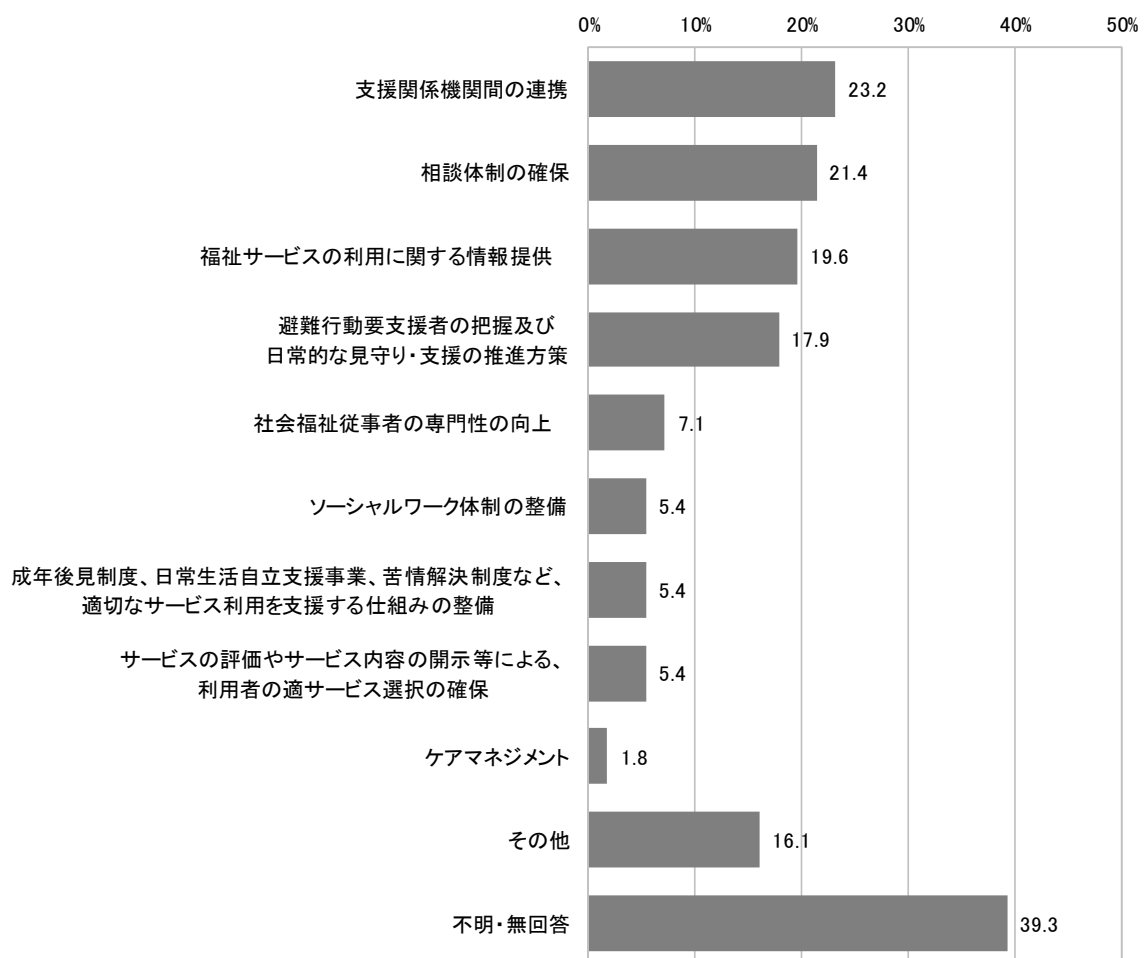


4. 地域共生社会の実現に向けて

問9 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、それぞれに対して、貴団体で取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見があればご入力ください。(番号1～10のうち、○は3つまで)

地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべきことは、「支援関係機関間の連携」が23.2%で最も割合が高く、次いで「相談体制の確保」が21.4%、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が19.6%となっています。

n=56



■支援関係機関間の連携

高齢者への支援。

市役所内での横のつながり・連携をもっとしてほしい。

医師会などの3師会との連携。

当事者の困っていることを行政やその他の機関につなぐ。

地域ケア会議への参加。

■相談体制の確保

相談窓口は時間が決められている為不便。時間外になると窓口がないために、幅を広げるか、その他の機関に相談できるようにしてもらいたい。

土日相談できるところがあるといい。

相談事を明確に書いて福祉サービスの利用に関する情報提供に掲載する。

地域包括支援センターが現状では広すぎて顔が見えない。できれば細分化の望み。

親が高齢化しているため親亡き後の障害者の相談。

ミニデイサービス通所者へ相談対応の充実をめざす。

■福祉サービスの利用に関する情報提供

視覚障害者に音声で福祉サービスを知らせる。

朝霞市の Facebook や Twitter だけでなく独立した SNS をもつ。

■避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策

壮年層市民の参加をのぞみたい。高齢者が高齢者サポートは体力的にむずかしい。

■社会福祉従事者の専門性の向上

専門知識はある人物と考えるが、人間性において道徳性が欠けているのではないか。

サロンにも多様な病歴の方がいるので対応できる専門性のある人がいないと困る(社会福祉従事者だけでなく、介護福祉までも可)。

■成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備

自己責任で決定すべき。

成年後見の必要性は感じているがまだ実現していない。(勉強会もやっている)

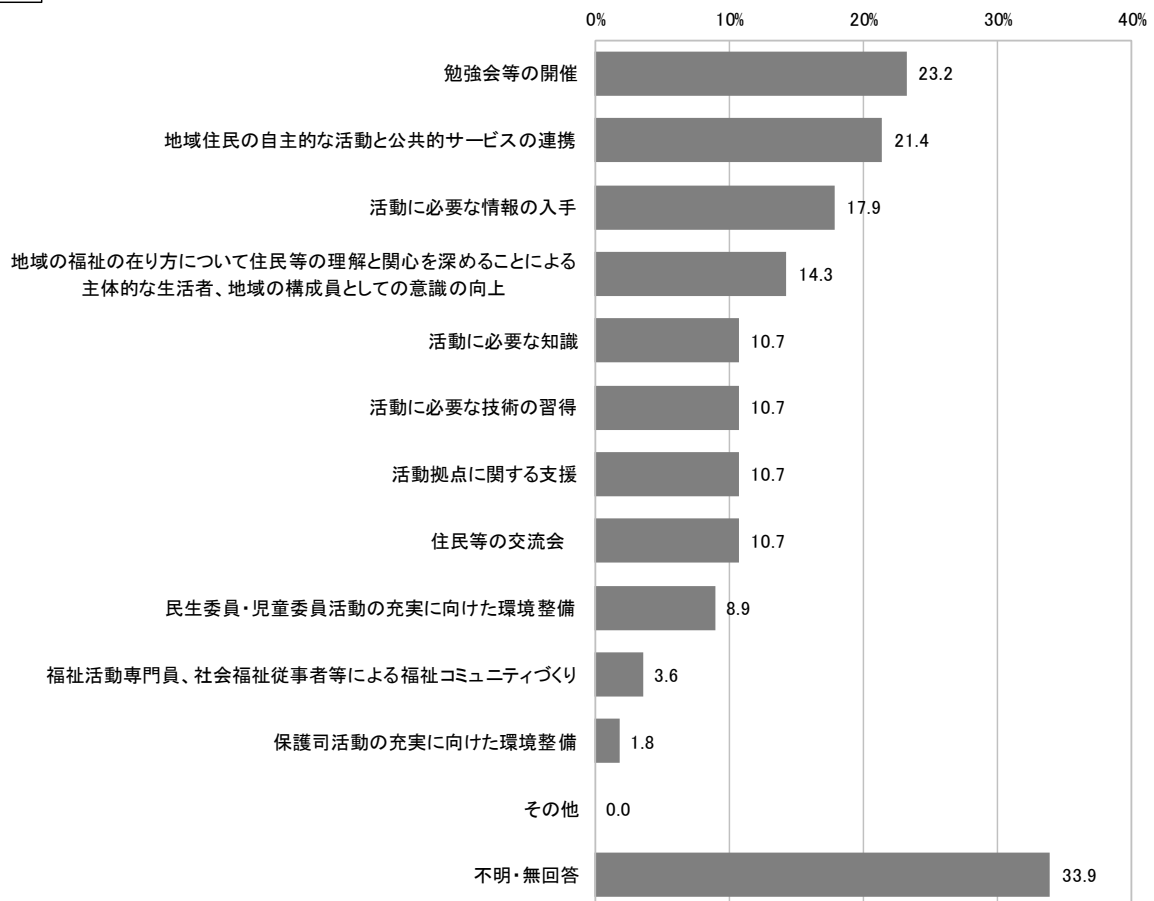
■その他

障害者が楽しみにしているので希望した人は全員受け入れてほしい。

問10 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、選択した項目に対して、貴団体で取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見があればご入力ください。(番号1～12のうち、○は3つまで)

地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために優先的に取り組むべきことは、「勉強会等の開催」が 23.2%で最も割合が高く、次いで「地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携」が 21.4%、「活動に必要な情報の入手」が 17.9%となっています。

n=56



■勉強会等の開催

市民企画講座の開催。
手話講習会の定期的な開講、手話の普及活動。
講演会など。
勉強会は大切なので、高齢者障害者が地域で生きていくための学習をする。
孤立しない子育ての為に母親が集い子連れで学べる場の提供。
定期的に行う。
研修講習への参加と開催に通じる。
現在の活動の継続。
福祉や介護の支援機関と当団体との合同勉強会の実施。福祉や介護の支援機関にはペットに関する勉強会、当団体へ福祉や介護の支援機関から講師を招いての勉強会の実施。

■地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携

活動団体登録条件を緩くして、使いやすくして頂きたい。
自己の持っている能力を生かせる、生かす生活をする。小さな能力を認めあう。それをつなげ合うことで活性化してゆく。
気軽に参加できる行事。ただ座って集まるのではなく、動作を伴うことをする。
NPO法人として中間支援組織としてコーディネイト力と組織として連携している期間・会員の中の専門職の力を活用して連携の質の充実をめざす。

■活動に必要な情報の入手

定例作業、市民企画講座などの情報把握。
現状維持が精一杯である。会員の高齢化と新会員の増員に努力しているが困難を極めている。
行政との情報共有と連携

■地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上

主体性は老人になってからでは望めない。40~50代位から、老後に対する意識認識の教育・準備が必要。
勉強会で習得。
1人暮らしの方が多いが地域とのつながりがむずかしい。地域団体や機械の福祉の在り方説明がたりない。
地道な普及活動が続けてきているがなかなか見えるかを示すエビデンスを残すことは難しい。客観的な評価に結びつくデータリサーチが出来るといいと思う。

■活動に必要な知識

勉強会で習得。
講演会を開催し、市民が勉強できる機会をつくる。
当事者への対応の方法。
市民への「子育て支援者養成講座」の開催と子育て支援活動のネットワークおよび活動拠点(事務所)の提供(使用料徴収)。

■活動に必要な技術の習得

学習会等の開催。
災害時の幼児との避難に便利なおんぶ講座など。

■活動拠点に関する支援

出かけやすい場所に大勢で集える会場を設備して頂きたい。
拠点確保がいちばんむずかしい。半径500mにひとつあるのが理想。
町内会館や児童センター、子育て支援センターで定期的に拠点として使わせてほしい。

■住民等の交流会

隣や近所に誰が住んでいるのかもわからない。自治会等での親睦会を設ける。
マンションの集会室を利用しているが高齢者が多いが参加する方は少ない。
会員の高齢化と新会員の増員に努力しているが困難を極めている。
地域懇談会への積極的な参加。

■民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備

秘密義務ということで活動しにくい場面がある。
民生委員・児童委員の後継者問題にとってもこまっているため、一緒に考えてほしい。

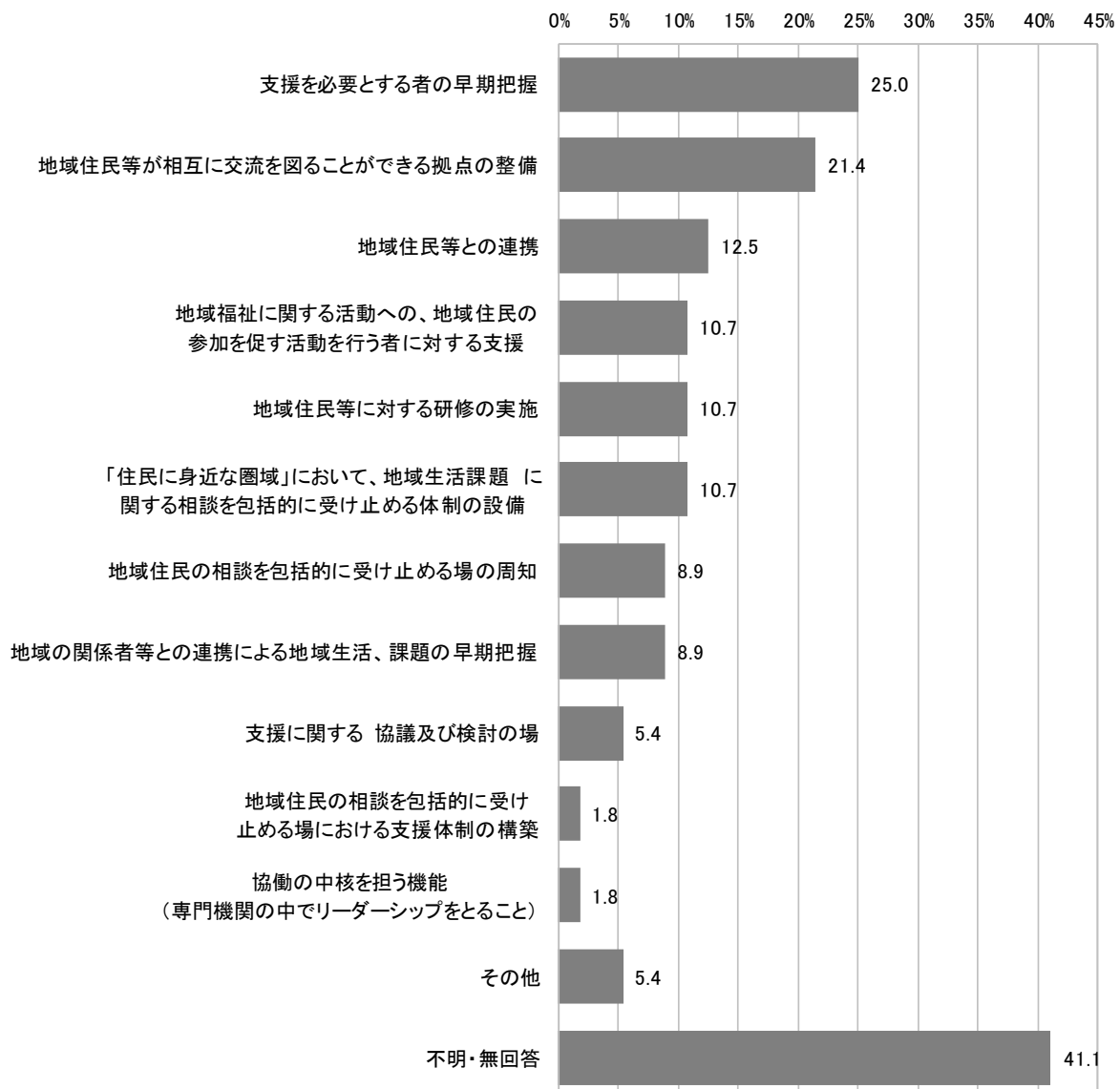
■保護司活動の充実に向けた環境整備

小学校、中学校との交流が、学校長が変わると無くなってしまうことがあって、その継続性を望みたい。

問11 包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、選択した項目に対して、貴団体で取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見があればご入力ください。(番号1～12のうち、〇は3つまで)

包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべきことは、「支援を必要とする者の早期把握」が25.0%で最も割合が高く、次いで「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が21.4%、「地域住民等との連携」が12.5%となっています。

n=56



■支援を必要とする者の早期把握

活動に参加している人に対して、支援を必要とする状況になった場合、情報を共有し早期に支援を頂く。

我々は団地であるので各階段住民が常日頃仲良くすることで把握する以外なし、と考える(包括的な相談支援体制の構築は大事と思う)。

保護司の処遇対応が終わった人の支援であるが、個人情報との関連で、難しいが住居の確保等の支援。

支援者と保健所、保健士との助産師連携が可能になること。

■地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備

空き家、空き商店街を利用した交流会を開く。

空き家の活用。新築マンションに公共施設をつくる。

■地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援

活動状況を担当者に見て頂く機会を定期的に設けて頂きたい。

人件費支援が必須。この条件をクリアできると人材確保がより充実。

■地域住民等に対する研修の実施

犯罪を犯してしまった人への理解、生育の中での不幸な歩み等を知って欲しい。

共生社会の学習が必要。

ボランティア人材バンクをつくり実施目的各に研修。

勉強会の開催。

研修学習会の開催。

地域住民が気軽に参加できる勉強会や講演会を企画する。

■「住民に身近な圏域」において、地域生活課題 に関する相談を包括的に受け止める体制の設備

近隣の自治体のトップ等の集まりをつくり、定期的に語り合いを続け、日常の問題点等の把握につとめ、協力体制を構築していく。

地域住民の相談相手が必要。

■地域の関係者等との連携による地域生活、課題の早期把握

近隣の自治体のトップ等の集まりをつくり、定期的に語り合いを続け、日常の問題点等の把握につとめ、協力体制を構築してゆく。

多様な行事実施中の中から対話で課題把握、場の多様な活用から新しい出会いで対話から課題把握。

■地域住民の相談を包括的に受け止める場における支援体制の構築

地域住民に対するアドバイスが必要。

■その他

若い世代で有能な市民の参加をうながして頂きたい。

問12 身近に困っている人がいるとき、貴団体ではどのような手助けができますか、又はやりたいですか。現在の活動状況に限定せず、できること、やりたいことをお答えください。(自由記述)

自由回答
現実的にいって、各メンバーは高齢者なので自身の生活でいっぱい。サークルとしては無理である。全員が年金生活者、細々と生きている。市民や自治体に迷惑をかけないように、自衛のため健康づくりに努力中、予防に心がけている。
音楽を通じて、交流の場を設け、楽しい時間を過ごすことによって、体や気持ちが少しでも楽になるようにしたい。
病院への同行、買い物、掃除等、家事一般。
フレイル予防、歩行訓練、健康づくりコミュニティ。
聴覚障害者への手話での情報保護等。
出来るだけ独り生活の人には声を掛ける(話しかける)様にしている。
近所で声かけやゴミだし当の手助けは今もできていますので続けてやっていきたい。
「団地つなげ隊」を目指している。一人暮らしの女性が増えているので日常生活の補助も必要。しかし老人同士では力仕事は助けられない。自分達の能力を認識し、いざという時の為の準備を促す程度がせいぜい。(自助の奨め)スーパーの買い物も大変になっているので身近での買い物が出来るようなシステム作りも必要。バスの運行路、身近で止まってくれるシステム。
あいさつ、声かけでだんだん顔見知りになれたらいいなと思っている。
日常的な声かけ。
朝霞市総合福祉センターの一階に保護司会のサポートやセンターがあり、犯罪予防という面から類する相談事ということで係わることができる。
福祉介護制度の利用の検討と相談。
サロン活動としては民生委員や自治会の方々を通じて参加して頂く。
ひとりぼっちのろう高齢者に声かけした方が望ましい。
視覚に障がいをお持ちの方に音読、朗読等のご希望があれば、出来るかぎり対応したいと思います。
まず声かけから初めて、お互いに信頼できる関係を作っていく事が必要。
声かけにしろ、ゴミ出し等のお手伝いは身近におられる人ならいつでも行っているし、心がけている。
行政、関係機関へのつなぎ役。
今は特にないが認知症カフェには気軽に参加できるようにする。
団体として何が出来るか、というより人間として自分のできることで困っている人にどのようなことができるか、を一人一人が考えていかれる社会が好ましいのでは。そのうえで、団体として、という考えがでてくるのではと思う。市内に1000人も経済的に厳しい子供たちがいるという実態に何とかしてあげたい、という思いだが行政はどの程度考えているか、逆にお聞きしたい。
一人暮らしの方が楽しく食事ができる機会を増やしたいとは思いますが場所の確保や食事を作る人材の確保がむずかしい。
声かけ、外掃除等、ゴミ出し、話し相手。
講座・イベントへの参加よびかけ 気軽に集まれる場を作る(やりたい項目)。

情報が得られれば、手助けできる人が手伝う。
点字を必要とする人の手助け。
会員が集まる機会があるのでその際に困っていることはないかという事を傾聴するようにしている。
声かけから、その人が必要としていること、困っていることを聞き、団体としての活動の中で改善できる点があれば、話し合い、活動の提案をしていく。
同じ障害を持つ方の相談及びその家族への相談。
子育て世代のストレス軽減ができると思う。幼児の5感を刺激した自然の中での遊び。
声かけ、傾聴、場合によって行政機関へ繋ぐ。
飼い主が高齢で体が不自由になり、ペットの世話が困難になった時、自宅に訪問し健康管理のアドバイスや会員が一時預かりするなど今後出来る体制にしていきたい。

問13 今後、活動団体が増えていく、また継続していくためには、どのようなことが必要と考えますか。

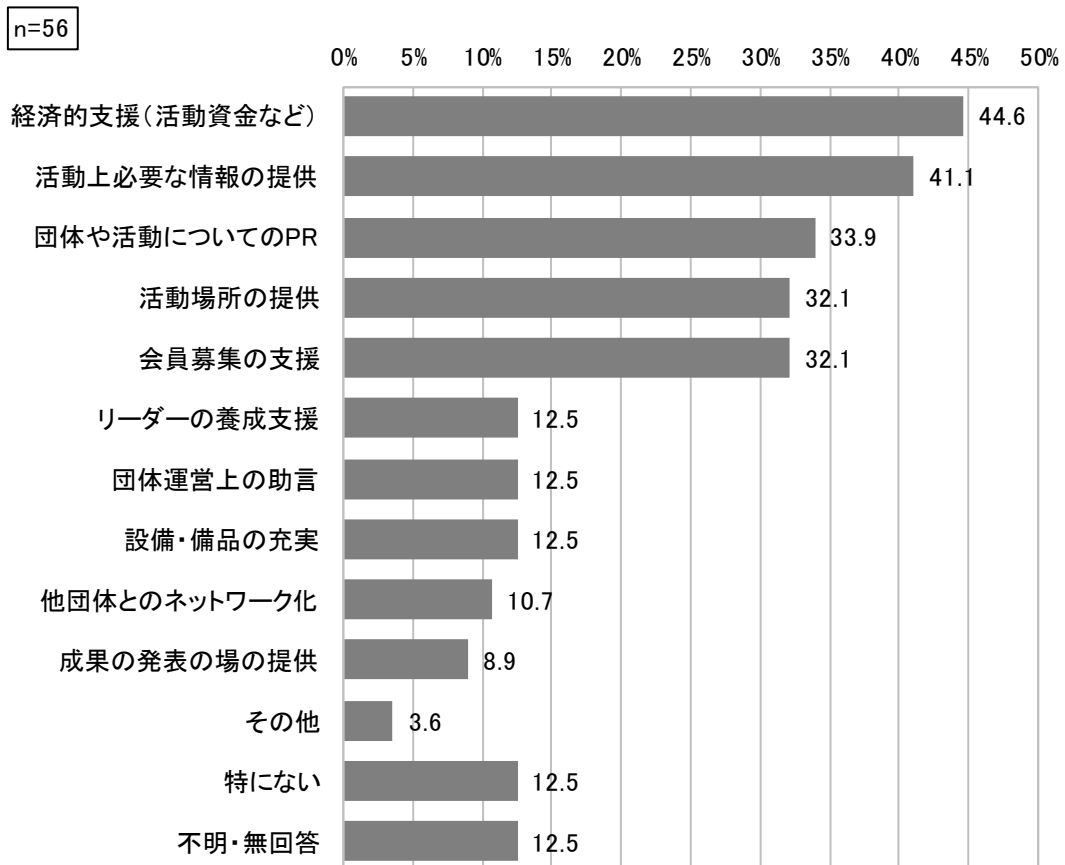
(自由記述)

自由回答
活動団体が増えていくことは良いこと。会の継続としては、各サークルのメンバー教育が不可欠です。そして、指導者の能力向上が求められる。
若い人(スタッフ)の力が必要。
理解と思いやり。
行政による(健康増進に取り組む)団体の催事。ノルディック・ウォーク。シニア体操。カフェ。他の団体、グループ組織を一同に集めた市民に発信するフェスタ等。
手話の認知度アップ。①講座会の開催②総合学習での自動・生徒への認知。
各自が場所や資金を用意することはできませんので、市としてしっかり場所や資金を出してください。税金は市民に使われるべきです。
ボランティアする人も自分の生活、体調があるので無理せず楽しんでやる範囲で活動したい。それが継続するには必要だと思います。
各個人の意識の向上。家にこもるのではなく外へ出て、地域の方と交流を持つと考え方を変える事が必要。高齢者の方には、容易ではないと思うがあきらめずに声かけが必要。
代表者だけの会にならず、役割分担もできるだけ多数の方をお願いする。運営する方、参加する方が柔軟に活動できるよう計画する。
町内会を通して活動団体の存在をアピールし団体への加入をPRしていく。
活動内容を地域住民の皆様知っていただくこと。ボランティアで活動して下さるスタッフの確保。
今いるスタッフ達の研修と親睦を大切にしていきたい。
地域住民の共生社会に対する意識を高める必要がある。
老人会食グループの活動なので、いつでも誰もが不定期に参加して活動できる団体ではないので参加者は事前に申し出ていただいて(利用者)います。主に利用者の口こみで入会者が増えています。活動場所にも限りがあり、大人数でという訳にはいきませんがとりあえず、現状維持を心掛け少しでも利用者に喜んでいただけるよう継続していきます。若いボランティアの方が入ってくださることを望んでいます。
若いメンバーを率先して入会させる(声かけ)。
若い方が参加してくれるように誘う。
目的を同じくすること、人との連携は大切と思いますが、一番連携したい行政が一番の壁になっているというのはなぜでしょうか。
会の中心となる方のスムーズな引き継ぎができる事が会の存続の必要だとも思います。
ボランティアスタッフの継続的な参加。
1. 活動拠点の設備 2. 活動資金の充実 3. 団体間の交流、情報共有
町内会をもっと活用すべき。指導養生が急務と考える。ボランティア団体で無理だと考える。
新しい会員を増やし、新しい意見等を吸収すること。
地域が明るく豊かになっていくために、活動していく必要性を伝えて、教官してくれる人たちを増やしていく。 ①共同で使用できる運営事務所の拠点を行政が借上げ、諸団体はわずかの屋賃を市に支払う。光熱水費については利用団体が負担する。車イス可。バリアフリー～ ②イベントなどをする(多機能小ホール)があるといい。 ③活動団体の発足のあり方で全く自主的に出来た団体と社協行政が研修した後で組織化された団体で行政の関わり・支援が大きく異なるが、一考必要 ④団体の質の向上のための研修(資格付与と含めて)のチャンスを行政が持ってほしい。
活動メンバーの新規加入、増員が必要。
やってあげてるという気持ちでなくやらせていただいているという精神で楽しくスタッフ自身が楽しんで共存する。あせらず、ゆるゆると共に過ごせる場でありたいと願い続けていきたいと思っています。
団体の活動サポートできる場所があるといい。
スタッフ一同考え続けていますが、正解が出ていません。
ボランティアなので、自身の事を優先にし、決して無理をしてはいけません。団体同士の協力や連携、セミナーやシンポジウム等でコラボするとお互いに知識も深まり、集客も期待できる。

問14 貴団体が活動をしていく上で、市役所・社会福祉協議会に望むことはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

市役所・社会福祉協議会に望むことは、「経済的支援（活動資金など）」が44.6%で最も割合が高く、次いで「活動上必要な情報の提供」が41.1%、「団体や活動についてのPR」が33.9%となっています。



問15 その他福祉環境をよくするためのご意見・ご提言等ありましたらご入力ください。(自由記述)

自由回答
市役所職員の優秀なる能力を発揮していただき、市民に愛され信用されるサービスを益に、向上して頂ければ幸いです。
現場を理解してほしい。できれば市・社協の方々も一緒に加わり、かかわって現状をみてほしい。
現在、社会福祉協議会さまには多大なご協力を頂戴しております。
他団体の活動の公表、一覧の提示。他団体との合同懇談会。
ボランティアは充実してきたと思います。困っている人が手助けして欲しいと言うのはなかなか勇気のいることです。言いやすい環境を作るのが大事ですが、なかなか。高齢で身体も不自由なのに人の世話になりたくないと思っている人も多い。
ろう高齢者のグループホーム設立。難聴児への情報保障支援。
コミュニケーション手段として手話通訳、要約筆記等の派遣がスムーズにできるように。
地域社会の中で一人暮らしの高齢者、重度障害者の社会への参加を促進するために、住民全体の意識を高める為の学習会等が必要。
バリアフリー歩道の設置。意識を変えていく為の教育。
一人暮らしの方が増えていく今後、活動団体が増えていけばいいとおもいます。
ボランティア団体では限界があり、町内会でもっと活動するべきだと思う。町内会の組織が現在まったく活用できていないと思う。町内会の組織をみればよくわかる。ま指導者に問題があり、住人代表になっていない。
我々の活動はシニアの孤立化を防ぐための「子育て支援活動」なので今後ますます深刻化していく社会問題です。
まずできることから始めたいと思います。地域であいさつが日常的にできるようになることが必要。老若男女挨拶がスムーズにできる地域が必要です。令和3年から具体的で分かり易いスローガンにして実践してはどうでしょうか。昨今自然災害が多い中「避難行動要支援者台帳」の活用が必至です。現在は町内会、民生委員の方々把握されているとお聞きしていますが、いざという時には限界があり機能しません。また、一般の人はその台帳があることさえわかっていません。いくら台帳があってもいざという時に活用されなければ意味がありません。そこで提案ですが、台帳登録者の同意が取れた方についてはお隣近所に情報提供をしてはどうでしょうか？また、町内会では班単位で、またマンションや自治会には「避難行動要支援台帳登録者」の情報開示しても良いのではないのでしょうか。現在の台帳の仕分けをする作業が必要ですが、その作業によって地域で何が必要かが見えてくるとおもいます。ただ台帳だけがあっても意味がありません。それを、第4期朝霞市福祉計画で紙面の計画ではなく実践の計画へと移行される事を臨みます。
ハートピアが台風被害のため、一次通所出来なかったことがありました。災害に対する危機管理がなかったと思いますのでしっかり管理に欲しい。
他団体の状況や朝霞市全体の福祉環境状況などなかなか知り得る機会がないので、情報提供の場があるといいと思う。現状から見えてくる問題から自分たちの団体ができることはないか？考えるきっかけになっていったらと思う。
①相談機能の24時間オープンがあるといい。②バリアフリー・市内交通・移動の利便性の推進③集う場の充実(時間帯・回数・内容・社会性)サロンの開設日数を増やさないと必要な時に必要な人が通えない。④協議体が地域にひとつ丈でオールマイティーではないので協議体と多くの団体機関・サロンとのきめこまかな連携が必須⑤在住外国製の人・障害者と一緒に共有出来る確保が必要

Ⅲ ヒアリング調査結果

1. 調査の目的

アンケート調査票でご回答いただいた団体の中から、アンケート調査票には書ききれない部分やより掘り下げた課題の把握に向けて、分野ごとのグループヒアリングを実施しました。

2. 調査の概要

実施日	令和2年1月14日(火)
実施場所	朝霞市総合福祉センター
対象分野	高齢者、障害のある人、地域活動団体、子どもの4分野
実施団体	アンケート調査票にご回答いただいた56団体のうち、当日参加いただいた16団体
【高齢者】	4団体
【障害のある人】	2団体
【地域活動団体】	5団体
【子ども】	5団体

3. 調査結果

【高齢者】

主な意見・提言
パーキンソン病、認知症の方がサロンにもおり、対応時に専門性が必要だと感じることがある。
認知症の疑いがあるなど、気になる方がいる場合、サロン後に民生委員がその方を訪問し、サロンに対して訪問結果をフィードバックしてもらおうなどしている。サロンでできることには限りがあるが、民生委員と協力することで気になる方をサポートすることができている。
認知症の方の対応を適切に行うために、地域包括支援センターにその方の情報を聞こうとしたが、個人情報保護の関係でごく限られた情報しか提供してもらえなかった。個人情報保護の大切さは理解しているが、もう少し柔軟に対応してもらえると助かる。
団体の活動中に倒れた人がいた。その日が偶然祭日であったため家族に連絡がしたが、そういった病気や事故が発生すると困る。会員証などを作成し、緊急時の連絡先を事前に把握することも重要である。
会員の8割が70代で高齢化しており、若いメンバーの加入が課題である。
高齢者同士、世代間など交流の場が不足している。交流の場は目的に見合った大きさを選べるとよい。また、高齢者にとっては移動も負担であるため、大通りを通らないですむ場所に交流の場があることが望ましい。
高齢単身世帯が増えており、見守り体制の整備など含め孤独死対策の重要性が増してくる。一方で関わらないで欲しいという独居高齢者の家族の意向もあり、対応が難しい場合もある。
単身世帯のひきこもり対策として、地域活動への参加を促していく必要がある。特に男性が地域活動に参加するケースが少ない。ただし、マージャンなど、団体の活動内容次第では男性の参加が多いこともある。
老人会の回覧版があり、回覧板が安否確認の役目も果たしている。
マンションなどで独居高齢者の情報共有を行い、直接的な交流がもてなかったとしても、気にかけておくことは重要である。
知り合いを通じて団体のスタッフや利用者になるケースが多いが、男性スタッフが知人の男性を誘うケースはまれである。
町内会に入らない人、脱会する人がいて、地域のつながりが薄れていると感じる。
本当に支援が必要な人が地域の活動に参加していないことが多いと感じる。如何にして支援が必要な人への支援をするかは大きな課題である。
要支援者に対して直接的に声をかけ、団体の活動に勧誘して参加につながったケースがある。気にかけてもらえることをうれしいと感じる人もいる。
団体の活動に継続的に参加してもらうために責任のあるタスクを課すことも有効である。

【障害のある人】

主な意見・提言
他団体とのつながりはほとんどない。過去、協議会があり他団体との交流があったが、今はなくなってしまった。
昔に比べ行政サービスも充実してきたこともあり団体への入会者は減少している。養護学校でのロコミなどで利用者が入るケースはあるが、入所施設に入るまでの情報を得るために入り、入所施設に入所したら会を抜けるというケースが多い。昔と比べ会員同士の会話を楽しむ人が減った印象がある。
活動の担い手を増やすために市民講座を企画することも重要だと感じているが、そういった活動はあまりできていない。
地域のつながりが薄れていることと同様にスタッフ、利用者とのつながりも薄れている。ピアサポートなども行政サービスでニーズが満たされているように感じる。
必要に応じて新しくサークルを作る人が増えている印象がある。古くから活動している団体と交流できるとよいと感じる。
大学の実習生の受け入れがあり、年間の活動スケジュールにも実習の受け入れが入っている。活動の担い手につなげていけるとよい。
地域の人と交流できる場の整備が不足している。
高齢者サロンに障害者も参加できるようになるとよい。そのために専門職のネットワークを作り、見守りを強化することでサロン側も受け入れにつながるのではないかと感じる。
バリアフリー環境が整備されてきているが、対策がされていない場所も多く残されている。なお、バリアフリーは障害者のみならず高齢者にとっても必要になる。
高齢者への対策が障害者への対策にも有効な場合もある。行政は縦割りで仕事をするのではなく、分野横断的に課題を共有・検討していくことが大切である。また、既存団体についても分野横断的に朝霞市のあるべき姿を共有し、行政のリーダーシップのもとで団体間のつながりを強化していくことも重要である。
障害に対する周囲の理解が不足しているケースがある。障害者施設の新設をする際も理解を得づらい場合がある。
障害者が事件を起こしたニュースなどを見て偏見を持つ人も多い。年齢を問わず教育をし、障害者に対する正しい理解及び対応方法について情報提供をすることが重要である。
はあとぴあの行事を増やしてほしい。特に年齢関係なく参加できるものであれば嬉しい。

【地域活動団体】

主な意見・提言
団体の活動の際にアンケートに回答してもらい、参加者のニーズを把握しているが、本当に支援を必要としている人が団体の活動にそもそも参加していない可能性がある点に課題を感じている。
団体の情報発信としてはHP、SNS やリーフレットなどの紙媒体も活用している。HP、SNS は高齢者自身が見なくても、高齢者の家族が見て、高齢者本人とともに参加するケースもある。
市の広報紙での情報発信について、助成金を受領している団体が広い掲載スペースで情報発信をしていると、助成金を受領していない団体とのバランスが悪いように感じるため、掲載ルールの見直しをお願いしたい。
活動場所を無償で借りることができており、活動で使う材料なども参加者から提供いただくことができているため、費用はそこまでかかっていない。活動資金を少なく押さえる工夫も重要である。
地域の人交流できる場が不足している。活動日が限られるサロンなどではなく、日常的な交流の場(世代問わず)が必要である。交流につながる講座などの開催も検討するのが良いのではないかな。
地域の交流の場として空き家の活用はどうか。行政の支援をお願いしたい。
地域の交流を活性化する際、目的が明確だと市民が集まりやすい。英会話をきっかけにオリンピックのボランティアに参加してもらえ人材を養成するなどの取り組みにつなげていくこともできる。
高齢者と子どもの交流があるとよい。
現役を退いたから地域の交流の場に出向くのではなく、現役の時から参加できるような交流の場があれば地域に目を向ける市民が増えるのではないかな。
高齢者の引きこもりを防ぐために運転免許返納後の移動手段確保が必要である。ボランティアによる車の送迎や循環バスの増便などがあると良いのではないかな。
車いすに対応可能な福祉タクシーが少ない。
車いす利用者に限らず、高齢者に向けた自治体のタクシー的なサービスがあれば移動手段として有効であると考えられる。
女性と比較して、男性の地域活動への参加が少ない。
市内で歩道の整備が不十分な場所も多いので対策が望まれる。
障害者施設が駅から離れた不便な場所にある。ソフト面のバリアフリーが進み、街中に障害者施設があることが自然に感じられる街を目指していきたい。
各団体が利用者を待つのではなく、各団体が支援を必要な人に対して主体的にアプローチしていくことも重要である。
学校で認知症サポーター養成するのがよい。
地域共生社会の実現に向けて SDGs への対応検討していく必要がある。

【子ども】

主な意見・提言
保健センターの乳児健診の際などにチラシを配ることができれば団体の利用者が増えると思うが、配布許可が出ない。もう少し柔軟に対応してほしい。
企業の協賛金の依頼をしているが、あまり反応が良くない。人件費、備品を踏まえると資金は不足している。また、助成金を取得しているが取得可能期間の制限があるケースもあり資金確保には苦慮している。
新しい団体のスタッフが増えないことに対して方針の見直しが必要と感じている。利用者はいてもスタッフは増えない。町内会加入率も3割程度のため、チラシを配っても効果が出づらい。
イベント開催の周知をインターネット上でも行っているが分かりづらい状況である。システムに投資する資金がないのも課題である。
子育て世帯が孤立していると感じる。保健センターから子育ての情報提供を行うなど、何らかの支援が必要ではないか。
利用者がサークルを見つけづらい。HP等の活用が有効ではあるが、団体の中に専門的なスキルを持つ人もおらず、活動資金も限られているため対応が難しい。
子どもが、親以外の大人など異世代との交流をする機会が不足している。
朝霞市は子どもが多い割に行政からの支援が少ないと感じる。予算含め、行政の縦割り支援も影響しているのではないかと。
虐待防止対策の重要性が増している。
舞台鑑賞などの文化教育が不足している。学校のカリキュラムから芸術などの時間が削られており、学校で舞台を見る子どもは少なくなっている。文化教育で学ぶことも多いはずであるが、残念である。
個人情報保護のために支援が必要な人へのアプローチをすることが難しいケースがある。
公園などの遊び場が不足している。また、公園があったとしてもボール遊びが禁止されていたり、その他多くの禁止事項があることも多い。子どもが自由に遊べる場所は限られてしまっている。学校区に1つは自由に遊べる場所を作った方が良いのではないかと。
学童施設が不足しており、両親が共働きの場合は放課後子ども一人で過ごすこともある。学童施設の増設が望まれる。
塾などで忙しく遊ぶ時間がない子どもが多い。親の考え方もあるため対応は難しいが、子どもは遊ぶことで学ぶことも多くある。
現代の子どもは忙しくストレスを抱えているが、発散する場や機会が限られている。
外国籍の子どもの孤立は大きな課題である。子どもの両親は日本語を話せず、子どもが通訳をしているケースもある。
民間企業の活用で専門職のネットワークを構築し、イベントへの呼びかけを通じて虐待防止につなげている自治体がある。朝霞市でも試みてはどうか。
近隣市の高校で、授業の中で高校生が赤ちゃんに関わる機会を設けたところ、退学者がゼロになったという事例がある。
他市で公民館カフェという試みをしている。子どもを遊ばせながら親は併設のカフェでリラックスできる。他市のよい取り組みは是非取り入れてほしい。
産後入院可能な施設があると出産後の負担を軽減することができるのではないかと。
孤食の対策として児童館などで食事を提供するのはいかがでしょうか。

第4期朝霞市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画

策定に係るアンケート調査票

本アンケート調査票は、第4期朝霞市地域福祉計画及び第4期朝霞市地域福祉活動計画策定にあたって、市内に組織されている福祉関係団体等の皆さまの、活動に関する現状や課題、今後の方向性、福祉施策についてのご意見等を把握し、計画策定の基礎資料とさせていただくものです。

ご回答いただいた団体の皆さまには、後日分野ごとのグループヒアリングを実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和元年 11 月

朝霞市長

富岡 勝則

朝霞市社会福祉協議会 会長 松尾 哲

— ご記入にあたって —

- ①ご記入は、ボールペン、鉛筆、シャープペンシル、万年筆でお願いいたします。
- ②ご記入が済みましたら、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて **12月13日（金）までにポストに投函してください。**
- ③必ずしもすべての質問に回答いただけても構いませんので、可能な範囲でご回答ください。
- ④本アンケート調査票は紙ではなく、電子ファイルでも回答を受付いたします。電子ファイルでの回答をご希望の場合は、以下のメールアドレスまでお問い合わせください。

◎この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

朝霞市 福祉部 福祉相談課 地域福祉係

TEL : (048) 463-1594 (直通)

FAX : (048) 463-1025

メールアドレス : fukusi@city.asaka.lg.jp

I 貴団体について

■貴団体の概要についてお書きください。

ふりがな			
団体の名称			
代表者名		調査票記載者名	
会員数	() 名		
活動年数	() 年		
主な活動内容			
主な活動拠点	(例：メンバーの自宅、市民センター、市役所など)		

Ⅱ 貴団体の活動について

問1 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市役所	2. 社会福祉協議会	3. 自治会・町内会
4. 子ども会	5. 当事者団体	6. 民生委員・児童委員
7. 保育園・幼稚園	8. 小学校・中学校	9. 高校・大学・専門学校
10. PTA	11. NPO・ボランティアグループ	12. 老人クラブ
13. 商店街	14. 介護・福祉施設	15. 病院・診療所
16. 警察・消防	17. 弁護士・司法書士	18. 企業
19. 商工会	20. 地域包括支援センター	21. 保健所
22. シルバー人材センター	23. 特になし	
24. その他 ()

(問1で「1」から「19」または「21」のいずれかを選択した方にお聞きします。)

問1-1 交流や連携、協力関係があると回答した団体・機関等とどのような関係がありますか。

(自由記述)

(記入例：1. 市役所 補助金の交付を受けている。)

問3 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 市の広報紙 『広報あさか』 | |
| 2. 社会福祉協議会の広報紙 『社協あさか』 | |
| 3. ボランティアニュース | |
| 4. チラシやパンフレットの配布 (配布場所：) |) |
| 5. ホームページ | |
| 6. 市役所の窓口・掲示板 | |
| 7. メンバーなどによる口コミ | |
| 8. その他 (|) |

問4 貴団体では、団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 知り合いを通して | 2. 市役所の窓口・掲示板 |
| 3. 市の広報紙 『広報あさか』 | 4. 市のホームページ |
| 5. 社会福祉協議会の窓口 | 6. 社会福祉協議会の広報紙 『社協あさか』 |
| 7. 社会福祉協議会のホームページ | 8. 民生委員・児童委員を通して |
| 9. 福祉サービスの事業所またはその職員 | 10. 他団体を通して |
| 11. その他 (|) 12. 特にない |

問5 市民の方が気軽に活動に参加できるように、市民の方が貴団体の活動に単発で参加することは考えられますか。(1つに○)

- | | |
|---|---|
| 1. 固定メンバーでの活動しか行えないため、そのような形は難しい | |
| 2. 活動の内容によっては、単発で参加してもらっても良い
(例えばどのような内容：) |) |
| 3. 常に単発の形でよいので、参加してもらえると助かる
(例えばどのような内容：) |) |
| 4. その他 (|) |

Ⅲ 地域について

問6 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1. あいさつをしない人が多い | 2. 緊急時の対応体制がわからない |
| 3. 犯罪の増加 | 4. 交通マナーの乱れ |
| 5. 道ばたのごみが増えた | 6. 地域での子どもの見守りがなされていない |
| 7. 子どもや高齢者、障害者に対する虐待を見たり聞いたりする | 8. 隣近所との交流が少ない |
| 9. 世代間の交流が少ない | 10. 地域の活動が不活発である |
| 11. 地域の中で気軽に集まれる場が少ない | 12. 障害のある人に対する理解が不足している |
| 13. 健康に対する意識が低い | 14. 福祉保健サービスについて市民に知られていない |
| 15. 高齢者世帯（一人暮らし等）やその他支援が必要な方の住まいなどの情報が手に入りにくい | 16. 児童や認知症高齢者などの虐待が疑われる家庭があってもどのように対応したらいいかわからない |
| 17. 大規模な風水害や地震時の避難と安否確認等、防災対策に不安がある | 18. 生活困窮者※への支援が不十分 |
| 19. その他（ | ） |

※生活困窮者：現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者。

（生活困窮者自立支援法より）

問7 貴団体では、地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止等のために、支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。（1つに○）

- | | |
|------------------|---|
| 1. 積極的に共有すべき | |
| 2. 必要であれば共有してもよい | |
| 3. あまり共有したくない | |
| 4. 一切共有すべきではない | |
| 5. わからない | |
| 6. その他（ | ） |

問8 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-----------------------|----------------------|---|
| 1. 日常生活に関する身近な相談窓口の整備 | 2. 地域の人が交流できる場の整備 | |
| 3. ネットワーク作り、見守り体制の整備 | 4. 買い物がしやすい環境づくり | |
| 5. バスなどの公共交通手段の整備 | 6. 支援が必要な人への支援 | |
| 7. 自主防災組織等の整備 | 8. 災害時における体制の整備 | |
| 9. 道路や建物のバリアフリー整備 | 10. スポーツや文化教養活動の環境整備 | |
| 11. 公園や緑地などの自然環境の整備 | 12. その他（ | ） |

Ⅳ 地域共生社会※の実現に向けて

※「地域共生社会」とは、社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すものです。

問9 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、それぞれに対して、貴団体で取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。(番号1～10のうち、○は3つまで)

番号	項目	具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。	分類
1	福祉サービスの利用に関する情報提供		福祉サービスを必要とする地域住民に対する相談支援体制の整備
2	相談体制の確保		
3	支援関係機関間の連携		
4	社会福祉従事者の専門性の向上		支援を必要とする人が必要なサービスを利用することができるための仕組みの確立
5	ケアマネジメント		
6	ソーシャルワーク体制の整備		
7	成年後見制度※1、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備		利用者の権利擁護
8	サービスの評価やサービス内容の開示等による、利用者の適切なサービス選択の確保		その他
9	避難行動要支援者※2の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策		
10	その他 ()		

※1 認知症の方、知的障害のある方、精神障害のある方など判断能力の不十分な方々に対して、財産管理や身上監護（介護、施設への入退所などの生活に配慮すること）についての契約や遺産分割などの法律行為等を支援する制度です。

※2 高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する方（要配慮者）のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な方で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する方のことです。

問10 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、選択した項目に対して、貴団体で取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。(番号1～12のうち、〇は3つまで)

番号	項目	具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。	分類
1	活動に必要な情報の入手		地域住民、ボランティア団体、NPO等の社会福祉活動への支援
2	活動に必要な知識		
3	活動に必要な技術の習得		
4	活動拠点に関する支援		
5	地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携		
6	地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上		住民等による地域課題への関心と意識の向上、地域福祉推進への主体的参加の促進
7	住民等の交流会		
8	勉強会等の開催		
9	福祉活動専門員、社会福祉従事者等による福祉コミュニティづくり		地域福祉を推進する人材のサポート
10	民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備		
11	保護司活動の充実に向けた環境整備		
12	その他 ()		その他

問 1 1 包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項を選択してください。
 また、選択した項目に対して、貴団体で取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。(番号1～12のうち、○は3つまで)

番号	項目	具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。	分類
1	地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援		「住民に身近な圏域」において、住民が主体的に地域生活課題を把握し、解決を試みることができる環境の整備
2	地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備		
3	地域住民等に対する研修の実施		
4	「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備		住民等による問題関心の共有化への動機付けと意識の向上、地域福祉推進への主体的参加の促進
5	地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知		
6	地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握		
7	地域住民の相談を包括的に受け止める場における支援体制の構築		
8	協働の中核を担う機能(専門機関の中でリーダーシップをとること)		
9	支援に関する協議及び検討の場		他機関の協働による朝霞市における包括的な相談支援体制の構築
10	支援を必要とする者の早期把握		
11	地域住民等との連携		
12	その他 ()		

問14 貴団体が活動をしていく上で、市役所・社会福祉協議会に望むことはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 団体や活動についてのPR	2. 活動上必要な情報の提供
3. 活動場所の提供	4. 会員募集の支援
5. リーダーの養成支援	6. 経済的支援(活動資金など)
7. 他団体とのネットワーク化	8. 団体運営上の助言
9. 設備・備品の充実	10. 成果の発表の場の提供
11. その他()	12. 特にない

問15 その他福祉環境をよくするためのご意見・ご提言等ありましたらお書きください。(自由記述)

問16 本ヒアリング調査票にご回答いただいた団体を対象に、後日分野ごとのグループヒアリングを実施する予定です。グループヒアリングへの参加意思をお答えください。(1つに○)

1. 参加したい
2. 参加は難しい

(問16で「1」を選択した方にお聞きします。)

問16-1 グループヒアリングのご案内をさせていただく際のご連絡先をお書き下さい。

[電話]	
[E-mail]	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

**第4期朝霞市地域福祉計画・
第4期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかるヒアリング調査
結果報告書**

発行年月 令和2年3月

発行 朝霞市・社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会

朝霞市福祉相談課

住所 〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1丁目1-1

T E L 048-463-1111(代)

F A X 048-463-1025

社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会

住所 〒351-8560 朝霞市浜崎51-1

T E L 048-486-2479(代)

F A X 048-486-2480
